

多摩地域史研究会会報

第170号

2026（令和8）年4月1日発行

E-mail.tamatiken@yahoo.co.jp

（ホームページ現在休止中）

【第127回例会報告】 今回の例会は東京都水道歴史館を訪ね、展示の解説や江戸上水についての講義を受けました。参加者は11名でした。参加記は内野正委員にお願いしました。

東京都水道歴史館見学参加記

内野 正

（本会委員会委員）

今回の例会は、2月28日（土）に「東京都水道歴史館を訪ねる」というテーマで行われました。東京都水道歴史館は神田上水や玉川上水など、江戸時代の上水（飲料水・生活用水）から近代水道の創設、さらには現在の水道に至るまで、東京都内の水道の歴史や技術を、実物資料や再現模型、映像資料などでわかりやすく紹介している施設です。

東京都文京区本郷に所在する東京都水道歴史館（以下、水道歴史館）は通常例会の行われる多摩地域からはやや遠方にあるため、当初、参加者が数名程になるのではないかと心配されましたが、結果として11名の参加となり、事前にアテンダントさんによる展示案内（5人以上の場合のみ可）や学芸員さんによる講演をお願いしていた水道歴史館様に対しても体裁を保つことができました。日中、暑いぐらいの好天に恵まれた当日は、13時30分にJR御茶ノ水駅のお茶の水橋口改札外に集合し、10分程歩いて、水道歴史館に向いました。

水道歴史館では、先ずアテンダントさんに館内の展示案内をしていただきました。水道歴史館は1階から3階まであり、1階は近現代水道関連の展示、2階は江戸上水関連の展示、3階が図書室と講義室となっています。展示案内は3階の講義室で水道歴史館の概要を聞いた後、水道（上水）の歴史の流れが判るように、2階、1階の順に進みました。アテン

ダントさんの説明は丁寧で解り易く、水道の歴史にあまり関心が無かった人の気持ちも引き寄せる印象でした。遺跡の発掘調査に携る仕事柄、私も2階の江戸の上水の展示にも興味がありましたが、特に注目したのは1階の村山下貯水池にある第1取水塔の実物大模型でした。現在、狭山丘陵内にある村山上貯水池、村山下貯水池、山口貯水池は私の自宅の近隣でもあり、それぞれの貯水池の取水塔は子供の頃から馴染みの存在でしたが、目の前で実物大をみてあらためて親しみを感じた次第です。

アテンダントさんによる展示案内の後、3階の講義室で、学芸員の金子智氏による江戸時代から近代にかけての東京都の上水道の歴史についての講義を聴きました。慶長8年（1603）の徳川家康による江戸幕府の創設により、近世都市江戸の発展は始まりますが、その基盤となったのが上水道でした。金子氏の講演は江戸初期の江戸上水として整備された「神田上水」と「溜池上水」の説明から始まり、後に江戸時代を通して重要な存在となる「玉川上水」の他、「青山上水」、「三田上水」、「千川上水」、「亀有上水」の話にまで及びます。「溜池上水」を除く他の上水は「江戸の六上水」と呼ばれ、明治時代まで機能するのは神田上水と玉川上水ですが、やがてそれらも西洋技術による近代水道（当時改良水道と呼称）の誕生により廃止されます。江戸上水の